



背景・目的

平成26年11月に「ESDに関するユネスコ世界会議」が日本で開催され、「国連ESDの10年」の後継プログラムであるグローバル・アクション・プログラム（GAP）が正式に開始された。同世界会議等において、ESDの一層の推進のためには、「全国的なネットワーク機能の体制整備が必要」との見解が出されたことから、ネットワークの中核となるセンターを整備するとともに、そのセンターを活用して、地域に根差した人づくり・拠点づくりを進めていく。

事業概要

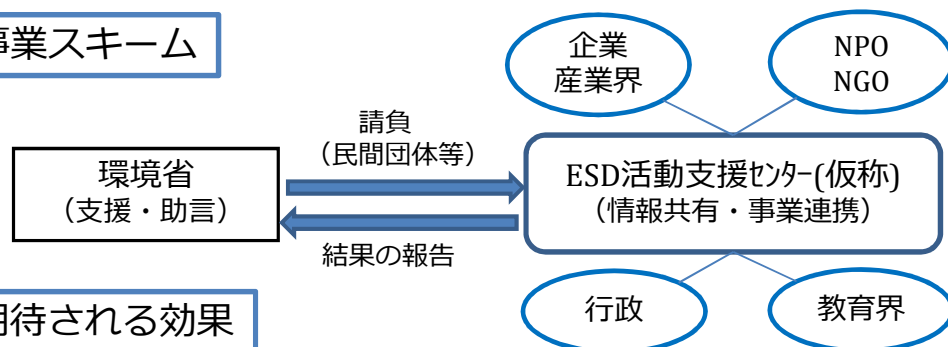
1. ESD活動支援センター(仮称)運営等経費

様々な主体が参画・連携するESD活動の地域拠点の形成を支援し、地域が必要とする取組支援や情報・経験を共有できる「ESD活動支援センター(仮称)」を整備・運営。

2. 環境教育・ESD基盤強化促進(人づくり・拠点づくり)促進事業

上記センターを活用し、地域の課題に応じたESDの取組が推進されるよう、指導者の育成や教育プログラムの開発等を実施。

事業スキーム



期待される効果

- ・ 多様な主体が協働する体制を構築することで、地域のニーズを的確に反映させたESDの取組推進が可能となる。
- ・ 各地域の環境課題に応じ、ESDの視点を取り入れた教育プログラムを整備し、より国民に身近な場所での実践を図ることにより、全国において効果的かつ効率的なESD推進が可能となる。

イメージ

ESD活動支援センター(仮称)の設置・運営

OECDの取組を推進するために、地域が必要とする取組支援や情報・経験を共有する「ESD活動支援センター(仮称)」(全国センター、地方センター)を整備・運営。



環境教育・ESD基盤強化(人づくり・拠点づくり)促進事業

OECDの視点を取り入れた環境教育の取組を指導する者を育成し、地域での環境教育の実践をサポート。

○各地域の環境課題に応じ、大人・子ども問わず、身近な場所でESDの視点を取り入れた環境教育を受けられるよう、教育プログラムを整備。

等

※ESD（持続可能な開発のための教育）とは



身近な場所で、慣れ親しんだ環境をテーマに、人と環境との関わりを学習。



単なる見学や説諭ではなく、より専門的な教育手法を活用。



背景にある社会的な問題（経済や文化等）を理解させ、問題解決に向けた行動変容を促していく。

